

厚生労働行政推進調査事業費 補助金  
厚生労働科学特別研究事業（19CA2029）

# 子どもの発育発達と公衆浴場における 混浴年齢に関する研究

2021.2.

研究代表者 植田 誠治（聖心女子大学）

# 子どもの発育発達と公衆浴場における 混浴年齢に関する研究

## 目的：

子どもの適正な混浴年齢に関するデータを多面的に収集すること

## 概要：

- 研究 1 自治体の条例に関する調査
- 研究 2 成人を対象とした調査
- 研究 3 子どもを対象とした調査
- 研究 4 公衆浴場事業所を対象とした調査
- 研究 5 園児や児童の性に関する意識や実態に関する調査

## 結論：

本研究成果を総合的に踏まえると、混浴禁止年齢は10歳よりも引き下げることが妥当であると考えられた

# 研究 1 自治体の条例に関する調査

## 調査時期

- ・ 2019年7月に厚生労働省の協力を得て実施

## 調査対象

- ・ 都道府県、保健所設置市及び特別区の154自治体の担当者

## 主な結果

- ・ 地方自治体で規定されている男女混合入浴の禁止年齢  
10歳：60.4%、12歳：9.7%、8歳：9.1%、7歳：1.3%
- ・ 年齢の引き下げが10件、年齢の引き上げが1件あった

## 研究2 成人を対象にした調査

### 調査時期

- ・ 2019年12月（Webアンケート）

### 調査対象

- ・ 全国の3,631名の成人男女

### 主な結果

- ・ 子どもの混浴の禁止について
  - 年齢制限の必要あり：80.3%（7歳：18.5%、6歳：15.7%、5歳：8.5%、10歳：6.5%）
  - 年齢制限の必要なし：14.9%
  - 制限の必要はあるが一律に年齢制限をする必要はない：30.7%
  - 混浴の全面禁止：4.8%

## 混浴に関する経験

子どもに混浴をさせた経験（n = 1,804, 子ども有のみ）			
有	1018	56.4%	
無	786	43.6%	
混浴の種類（複数回答可）（n = 1,018, 子どもに混浴をさせた経験有のみ）			
男児を女湯に	503	49.4%	
女児を男湯に	644	63.3%	
子どもの混浴に遭遇した経験（n = 3,631, 回答者全体）			
有	2469	68.0	
無	1162	32.0	

## 研究2（資料2）

# 子どもに最後に 混浴を経験させ た年齢

年齢	男児の女湯利用 (n=644)			女児の男湯利用 (n=503)		
	n	%		n	%	
0	10	1.6		4	0.8	
1	21	3.3		14	2.8	
2	62	9.6		62	12.3	
3	140	21.7		103	20.5	
4	96	14.9		80	15.9	
5	127	19.7		106	21.1	
6	106	16.5		73	14.5	
7	46	7.1		34	6.8	
8	23	3.6		18	3.6	
9	8	1.3		4	0.8	
10	4	0.6		4	0.8	
11	1	0.2		1	0.2	
> 12	0	0		0	0	

## 研究 2 (資料 3)

# 子どもの 混浴禁止に ついて

**必要なし：**  
混浴禁止の必要はない

**全面禁止：**  
混浴の全面禁止  
(= 0歳からの禁止)

**必要あり：**  
子どもの混浴は年齢に  
応じて禁止する必要が  
ある

**条件付：**  
子どもの混浴は年齢に  
応じて制限する必要が  
あるが一律の年齢制限  
とする必要はない

	合計		子ども有 (n=1804)		子ども無 (n=1827)	
	n	%	n	%	n	%
必要なし	542	14.9	226	12.5	316	17.3
全面禁止	175	4.8	58	3.2	117	6.4
必要あり	2914	80.3	1520	84.3	1394	76.3
年齢						
1	17	0.6	9	0.6	8	0.6
2	26	0.9	15	1.0	11	0.8
3	169	5.8	83	5.5	86	6.2
4	150	5.1	79	5.2	71	5.1
5	248	8.5	138	9.1	110	7.9
6	538	18.5	300	19.7	238	17.1
7	457	15.7	303	19.9	154	11.0
8	102	3.5	64	4.2	38	2.7
9	65	2.2	36	2.4	29	2.1
10	190	6.5	101	6.6	89	6.4
11	17	0.6	6	0.4	11	0.8
> 12	40	1.4	13	0.9	27	1.9
条件付	895	30.7	373	24.5	522	37.4

## 研究3 子どもを対象にした調査

### 調査時期

- ・ 2020年2月（保護者の端末を使用したWebアンケート）

### 調査対象

- ・ 北海道東北、関東、北陸甲信越、東海、関西、中国、四国、九州から人口比率を考慮した7歳から12歳の男女1,500名

### 主な結果

- ・ 水着なしで異性浴場に入った最後の年齢  
5歳：20.0%、6歳：14.1%、7歳：13.0%、4歳：9.6%、3歳：8.3%
- ・ 水着なしで異性浴場に入ることをはずかしいと思い始めた年齢  
6歳：27.0%、7歳：21.2%、5歳：16.1%、8歳：13.4%、9歳：7.0%



研究3（資料1）

水着なしで異性浴場に入った最終年齢（N = 615）

	合計	%	男子	%	女子	%
0歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
1歳	4	0.7%	3	0.8%	1	0.5%
2歳	12	2.0%	4	1.0%	8	3.6%
3歳	51	8.3%	31	7.9%	20	9.0%
4歳	59	9.6%	38	9.6%	21	9.5%
5歳	123	20.0%	83	21.1%	40	18.1%
6歳	87	14.1%	57	14.5%	30	13.6%
7歳	80	13.0%	51	12.9%	29	13.1%
8歳	33	5.4%	17	4.3%	16	7.2%
9歳	8	1.3%	7	1.8%	1	0.5%
10歳	12	2.0%	6	1.5%	6	2.7%
11歳	2	0.3%	0	0.0%	2	0.9%
12歳	1	0.2%	1	0.3%	0	0.0%
覚えていない	143	23.3%	96	24.4%	47	21.3%

研究3 (資料2)

水着なしで異性浴場に入ることをはずかしいと思い始めた年齢 (N = 1094)

	合計	%	男子	%	女子	%
0歳	3	0.3%	1	0.2%	2	0.4%
1歳	1	0.1%	1	0.2%	0	0.0%
2歳	5	0.5%	4	0.8%	1	0.2%
3歳	29	2.7%	15	2.8%	14	2.5%
4歳	68	6.2%	32	6.0%	36	6.4%
5歳	176	16.1%	83	15.6%	93	16.5%
6歳	295	27.0%	161	30.3%	134	23.8%
7歳	232	21.2%	111	20.9%	121	21.5%
8歳	147	13.4%	67	12.6%	80	14.2%
9歳	77	7.0%	31	5.8%	46	8.2%
10歳	44	4.0%	18	3.4%	26	4.6%
11歳	15	1.4%	7	1.3%	8	1.4%
12歳	2	0.2%	1	0.2%	1	0.2%

## 研究4 公衆浴場事業所を対象にした調査

### 調査時期

- ・ 2020年2月（郵送法による調査）

### 調査対象

- ・ 12都道府県から合計246件の回答

### 主な結果

- ・ 子どもの混浴を禁止とする年齢（回答者の意見）  
7歳：25.4%、6歳：23.9%、10歳：23.0%、8歳：18.7%

## 研究4（資料1）

### 混浴を禁止している年齢

年齢	n	%
0	1	0.4%
6	35	14.4%
7	33	13.6%
8	36	14.8%
9	13	5.3%
10	107	44.0%
11	3	1.2%
12	1	0.4%
無回答	13	5.3%
その他	1	0.4%

研究4（資料2）

## 混浴禁止年齢に関する利用者のトラブルの有無

	n	%
なかった	214	88.1%
あった	26	10.7%
無回答	3	1.2%

研究4（資料3）

## 混浴禁止年齢に関する利用者からの要望の有無

	n	%
なかった	204	84.0%
あった	36	14.8%
無回答	3	1.2%

研究4（資料4）

## 混浴を禁止にするべき要件

	n	%
年齢によって禁止	209	86.0%
混浴禁止の必要ない	30	12.3%
0歳（全面禁止）	1	0.4%
一律の年齢制限とする必要はない	0	0.0%

研究4（資料5）

## 混浴を禁止にするべき年齢

禁止とする年齢	n	%
3歳	1	0.5%
4歳	1	0.5%
5歳	3	1.4%
6歳	50	23.9%
7歳	53	25.4%
8歳	39	18.7%
9歳	13	6.2%
10歳	48	23.0%
11歳	0	0.0%
12歳	1	0.5%



研究4（資料6）

混浴を考慮する要件（複数回答可）

	n	%
子供に障害がある場合	96	39.5%
公衆浴場の事業者が緩和する必要がある場合	90	37.0%
一人で入浴することへの心配がある場合	59	24.3%
入浴時に同性の保護者がいない場合	46	18.9%
シングルファザー（マザー）で異性の子供	40	16.5%
家族風呂の場合	28	11.5%
その他	10	4.1%

# 研究5 園児や児童の性に関する 意識や実態に関する調査

## 調査時期

- ・ 2020年2月、3月（インタビューによる調査）

## 調査対象

- ・ 保育園または幼稚園の担任教員4名、幼稚園のみに勤務経験のある担任教員2名、小学校担任教員3名、小学校養護教諭2名、幼稚園勤務経験のある養護教諭3名の計12名

## 主な結果

- ・ 4～5歳児に男女の体の違いの意識が明確になり、小学2～3年生で性の興味関心から知識を得ようとする行動がみられた。そのため、早ければ4～5歳から男女別の着替えや性教育が必要であることが示唆された。

# 結 論

- ・現状では条例によって多くの自治体で混浴禁止年齢が10歳であり、年齢の引き下げが10件あった
- ・成人の考える子どもの混浴許容年齢は6歳の割合が高く次いで7歳であった
- ・子ども自身が異性混浴をはずかしいと思いはじめた年齢は6歳と7歳が相対的に高かった
- ・公衆浴場事業者が考える混浴を禁止とすべき年齢は7歳の割合が最も高いことが明らかとなった。
- ・小学2～3年生で性の興味関心から知識を得ようとする行動がみられるという意見を得た。

以上を総合的に踏まえると混浴禁止年齢は10歳よりも引き下げることが妥当であると考えられた。